JICE 一般財団法人 国土技術研究センター Japan Institute of Country-ology and Engineering

令和6年度：日本応用地質学会研究発表会　講演資料

自然災害伝承碑プロジェクトの第２ステージへの期待

～地域の災害教訓の「見える化」から災害の自分事化・具体的な「備え」へ～

令和6年10月10日

川﨑　茂信

（一財）国土技術研究センター　理事

本日の主な話題

JICE

Ⅰ． 自然災害伝承碑プロジェクトの取組の背景

Ⅱ． 国土地理院が取り組む理由と関係機関との連携の重要性
（令和元年〔2019年〕前後）

Ⅲ．第１ステージ（これまで）：地域の災害教訓の見える化

Ⅳ．第２ステージ（これから）：災害の自分事化や具体的な備えへの活用

JICE

Ⅰ．　自然災害伝承碑プロジェクトの取組の背景

No. 4 ＜背景その１＞

重点道の駅「高田松原」の企画立案の黎明期を担当

JICE

■東日本大震災後の３年目・４年目の東北地方整備局の道路部長を担当

〔2013〕〔2014〕

■平成２５年〔2013年〕当時、「復興道路・復興支援道路の計画的な整備」と併せて、被災した道の駅「高田松原」の再構築と（仮称）震災伝承館の実現が大きな懸案事項

出典：道21世紀新聞　Route Press 21st. 2020年7月号より転載

被災した道の駅・タピック４５

出典：国土交通省東北地方整備局

道路啓開のために取り組んだ地元建設業者

重点道の駅の企画立案過程で東北各地に残る『津波石』の存在を知る

JICE

■東日本大震災よりも前に残されていた『津波石』は317箇所

※平成25年当時

■『津波石』には、津波被害の悲惨な様子や津波が襲来する前兆現象、避難方法など「教訓」が刻まれていた

出典：国土交通省東北地方整備局

出典：国土交通省東北地方整備局

No. 6　その後・令和元年〔2019年〕9月22日にオープン

震災伝承の聖地・岩手県陸前高田市の東日本大震災津波伝承館

No. 7

岩手県陸前高田市の東日本大震災津波伝承館（全景：内陸側から広田湾を臨む）

JICE

出典：国土交通省東北地方整備局

東日本大震災津波伝承館の展示内容：事例1

JICE

■「実物や実写」で災害の事実を知る

津波で流出した国道45号の気仙大橋

ガイダンスシアター

東日本大震災津波伝承館の展示内容：事例2

JICE

■道路啓開に取り組んだ地元建設業者などの活動から教訓を学ぶ

建設業界の生の声

東北地方整備局職員の生の声

写真提供：東日本大震災津波伝承館

中央画面は、発災から「くしの歯作戦」（道路啓開）までの真実を伝える動画

▲移設された東北地方整備局の災害対策室

東日本大震災津波伝承館の展示内容：事例3

JICE

■一人ひとりの「命を守った行動」から教訓を学ぶ

写真提供：東日本大震災津波伝承館

日々の備え

- **月1回の避難訓練**を欠かさず、**日ごろから早歩き散歩**を実行。
- 幼児7名ほどが乗れる**手押し乳母車を「避難車」として購入**。
- **民家の畑を横切る了解を得て避難経路を短縮**。

被災直後の行動

- 0歳児はおんぶ紐で背負い、1歳児は避難車に乗せ、
  他の園児は上履きのままで、**訓練通りに避難**。
- 園児と職員およそ**100名が無事避難**。
  泣く子は一人もいませんでした。

野田村保育所の避難行動を題材にした絵本の出版も紹介▶

『はなちゃんの はやあるき はやあるき』
宇部京子・作／菅野博子・絵／岩崎書店

当時の主任保育士は、「大地震が来たら 源平坂に逃げろ」という地元の言い伝えを思い出していました。事実、津波は源平坂の下まで迫って来ました。

No. 11

震災伝承施設をネットワーク化する「3．11伝承ロード」

JICE

「3．11伝承ロード」とは

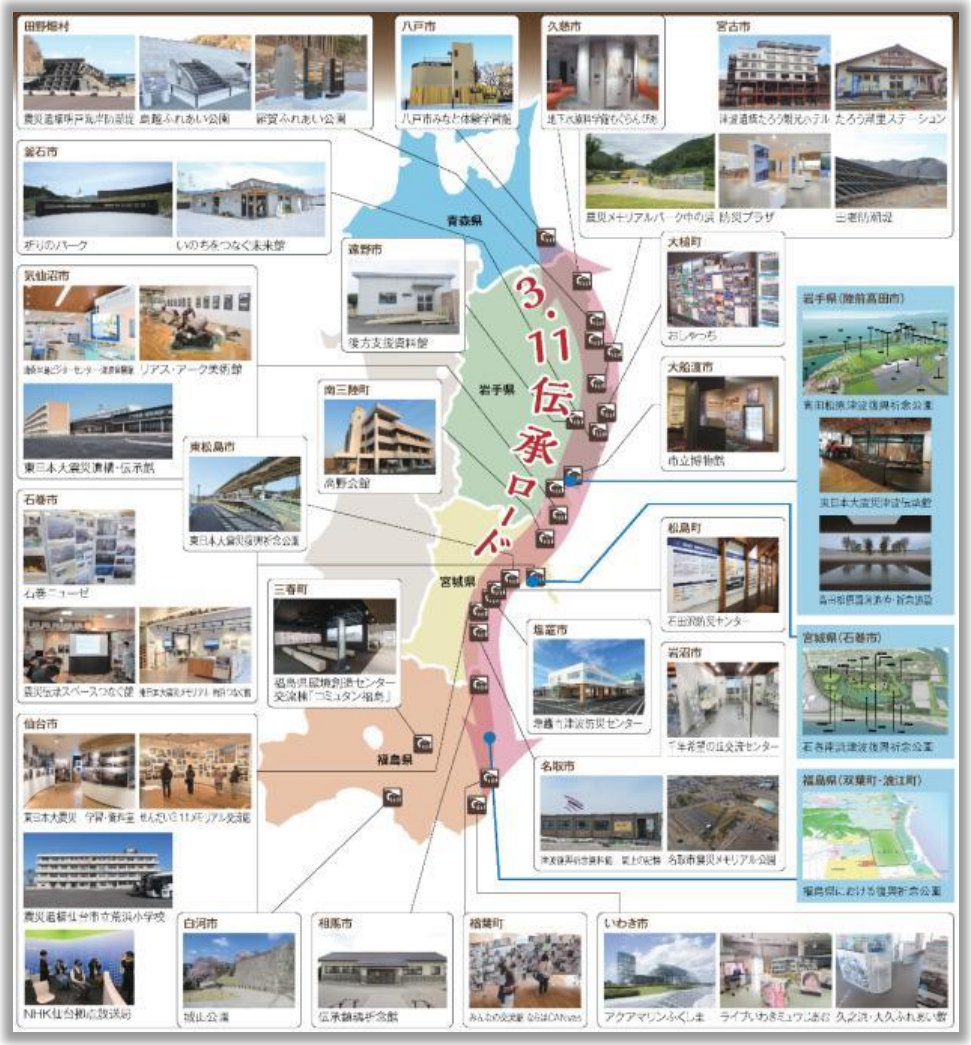
震災伝承施設のネットワークを活用し、
東日本大震災の教訓を全国の防災・
減災・備え等の強化に活かす活動

多様な方の学ぶ機会を創出

○一般の方
○修学・学習
○自治体関係者
○業界関係者
○学術・研究機関
○防災専門家　　など

目　標

①防災力の向上（教訓の伝承）
②復興途上の被災地を応援



資料提供：国土交通省東北地方整備局

全国の皆さまへ
是非、重点道の駅「高田松原」や３．１１伝承ロードを訪問して頂きたい！

No. 12 ＜背景その２＞

平成30年〔2018年〕度7月豪雨災害の初動対応〔中国地方の主な被災概要〕

JICE

○平成30年7月豪雨は、**昭和47年7月豪雨以来**の記録的な豪雨。

○平成26年8月の広島豪雨土砂災害と比較し、**流出した土砂量は約１６倍。**

（H26.8 =**50万m³** ⇒ H30.7=**813万m³**）

○中国4県**9水系35箇所で堤防決壊**。特に倉敷市真備町で大規模な浸水被害。

（浸水面積約1,200ha、全壊戸数約4,600棟）

①沿岸に集中する交通手段への土砂崩壊（坂町水尻）

②約600mの土砂崩落を受けた山陽道（東広島市志和トンネル東口）

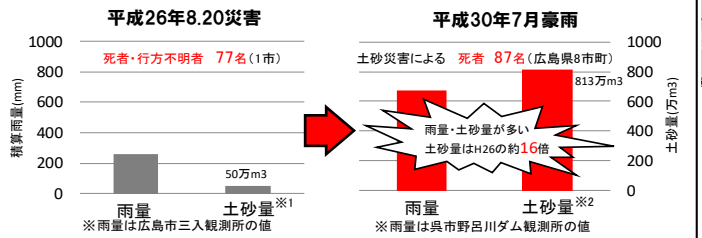
③900m以上の土砂崩落を受けた山陽道（東広島市志和IC～西条IC間）

⑤沼田川の堤防決壊（三原市本郷町）

④山頂から続く大規模土砂崩落（呉市安浦）

⑥小田川の堤防決壊（倉敷市真備町）

■平成26年8月災害との比較



※1 中国地方整備局算出

※2 広島県「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会 第1回砂防部会」資料より（H30.9.10）

出典：「平成30年度中国地方防災研究会・第３回講演会」における中国地方整備局報告資料（平成30年7月豪雨における対応について）より

No. 13

過去の災害の教訓伝承の重要性
〔平成30年7月豪雨災害：広島県 坂町のケース〕

JICE

○ 広島県 坂町 小屋浦地区では、1907年（明治40年）に土砂災害があり、甚大な被害が発生した旨の石碑が設置されている
○ 避難勧告を受けた避難率は町全体の半分程度

写真提供：大阪府警察

出典：国土地理院（地理院地図「自然災害伝承碑」）

水　害　碑
（広島県坂町小屋浦地区）

＜避難勧告が出されて2時間後までの避難率＞
坂町全体：3.9%　　小屋浦地区：1.9%

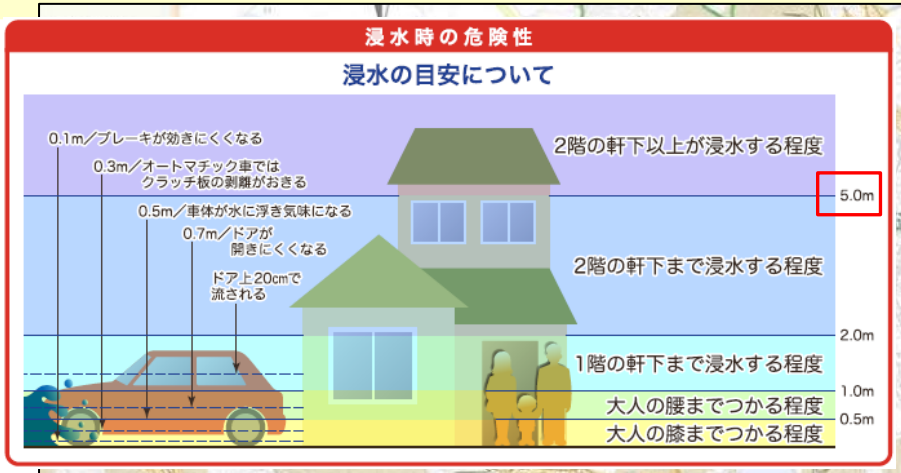
出典：中国新聞（2018年11月14日）

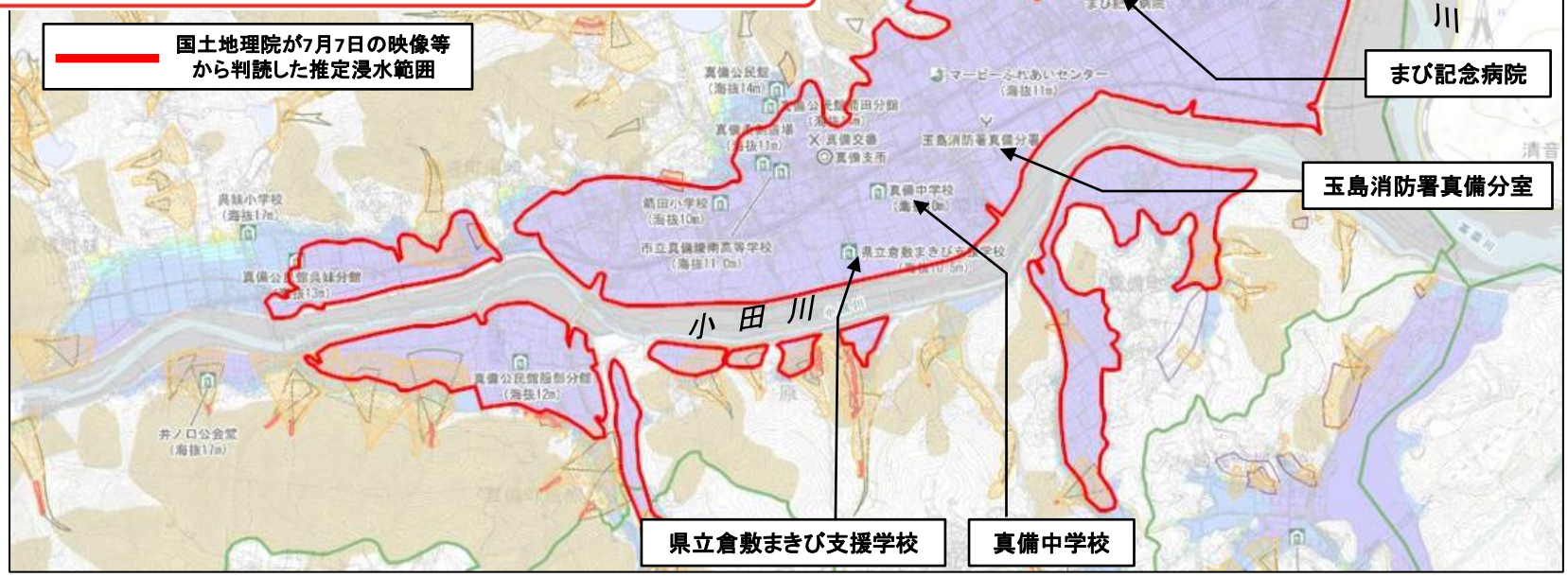
No. 14

平成30年7月豪雨災害
岡山県倉敷市真備地区のハザードマップと浸水実績

JICE

○ 倉敷市（平成29年作成）の洪水・土砂災害ハザードマップと7月豪雨による浸水実績はほぼ一致
○ ハザードマップでは、浸水深が5mのところ（２階でも安全でない）に消防署でも浸水と示されていた





出典：倉敷市（平成29年作成）洪水・土砂災害ハザードマップ　真備・船穂地区

過去の災害の教訓伝承の重要性
〔平成30年7月豪雨災害：岡山県倉敷市真備地区のケース〕

JICE

岡山県倉敷市真備地区の事例　＜2018.7 西日本豪雨＞

○岡山県倉敷市真備町でも、1893年（明治26年）の供養塔が源福寺に設置されていた

岡山県倉敷市真備町　源福寺
写真提供：国土交通省中国地方整備局岡山河川事務所

供養塔 - 源福寺境内（岡山県倉敷市真備町）
写真提供：国土交通省中国地方整備局岡山河川事務所

○明治26年（1893年）に起きた水害で、真備町は200人以上が犠牲

自然災害の事実や教訓の伝承は全国的な共通課題

JICE

■平成３０年７月豪雨災害の初動対応の実体験から、土砂災害でも洪水災害でも過去の災害の教訓伝承は極めて重要と再認識

■激甚化する自然災害に対応するには、社会資本の更なる整備と先人からの教訓にもしっかり耳を傾け災害を自分事として捉えてもらう取組との二刀流が必要

JICE

Ⅱ．国土地理院が取り組む理由と関係機関との連携の重要性

（令和元年〔2019年〕前後）

近代測量150年の節目〔2019年〕に国土地理院での仕事の機会を得る

JICE

■発災２ヶ月後に、地図という国民生活のプラットフォームづくりを担う国土地理院に異動　⇒　「地理院地図」の可能性を知る

■村上前院長の最終講演で、地図記号として老人ホームの記号の新設エピソードを伺う　⇒　“地図記号を新規に増やせることを知る”

■４年後の令和４年度に高校「地理総合」の必履修化を見据えた、地理教育支援のあり方が国土地理院内で議論されているタイミング

⇒　地理教育支援策の取りまとめが喫緊の課題

重点的に取り組むべき6つの地理教育支援策（2019年3月提言）

JICE

①防災・減災のための「備え」として地図情報の充実

②防災地理情報の有効性の評価と教材化の支援

③地理教育に関する優良事例の普及

④実体験による地理への親しみの醸成

⑤教育関係者に届く情報の提供

⑥「地理院地図」のコンテンツの充実と機能の向上

①防災・減災のための災害の「備え」として地図情報の充実

JICE

3－①　防災・減災のための「備え」として地図情報の充実

国土地理院

○災害履歴情報や地形特性情報から構成される防災地理情報を充実させつつ地理院地図等を通じて提供し、防災・減災への「備え」面での取組を強化

防災地理情報

地形特性情報

地形分類（自然地形）

氾濫平野などの低地部に浸水が発生

明治期の低湿地データ

出典：我孫子市資料

過去に水部だった場所で液状化が発生

災害履歴情報

自然災害伝承碑

水害碑
（広島県坂町
小屋浦地区）

大津波記念碑※
（岩手県宮古市
重茂姉吉地区）

国土交通省ホームページより
http://www.thr.mlit.go.jp
/road/sekihijouhou/

古文書（絵図等）

島原大変大地図
（肥前島原松平文庫所蔵）

地理院地図を活用して、災害履歴情報と地形特性情報を結び付け、災害と地形の関係を考察したり、指定緊急避難場所などの他の地理空間情報と重ね合わせたり、地域調査に伝承碑を活用すること等により、災害リスクに関する理解がより深まることを期待

No. 21

防災・減災のための「備え」面での地図の役割・再構築

JICE

○自然災害伝承碑や災害古文書などの「**災害履歴情報**」や明治期の低湿地などの「**地形特性情報**」を**Web『地理院地図』で提供**し、地域での防災力の向上や防災教育の充実を支援

防災地理情報

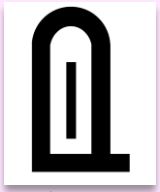
災害履歴情報

地図記号
「自然災害伝承碑」
を新たに制定

（広島県坂町小屋浦地区）

2019年6月から順次掲載

【Web『地理院地図』での表示イメージ】



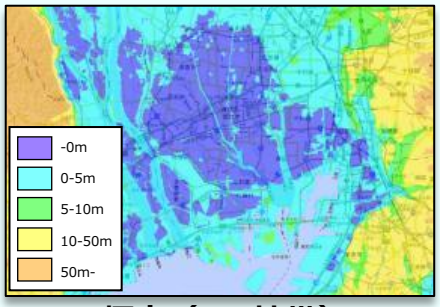
2019年9月から順次掲載

【２万５千分１地形図での表示イメージ】

地形特性情報

明治期の低湿地

三大都市圏のみ → **地方都市の整備に着手**



標高（0m地帯）

地形分類

平野部が中心 → **丘陵地など整備範囲拡大**

No. 22　＜参考：「地理院地図」の紹介　令和元年〔2019年〕前後＞

防災面の基盤地図を目指すウェブ地図「地理院地図」

JICE

～ 概要と特長 ～

○**Web『地理院地図』**は、防災面のプラットフォームを目指し、「防災地理情報」を含む様々な地理空間情報を提供するウェブ地図で、**正確な日本の姿**を表しています。

備え　**地理院地図の特長**

（１）最新の緊急輸送道路が載っている！

高速道路や国道等を供用開始日に地図に反映

（２）防災地理情報が載っている！

① 明治期の低湿地データ等の災害リスク情報を含む、2,000以上の情報が見られる
② 「自然災害伝承碑」情報が見られる

（３）緯度、経度に加え標高がわかる！

① 断面図作成機能で避難経路の傾斜を確認できる
② 色別標高図作成機能で0m地帯などの地元の詳細な高低差がわかる

（４）地域の防災力強化に有効な機能がある！

① 地元の指定緊急避難場所がわかる
② 道の駅など防災面で有効な施設情報がわかる
③ 震災遺構などの情報も記入予定

発生後

（５）被災前後の写真を比較できる！

2画面表示で被災状況が視覚的にわかる

地理院地図

No. 23　＜参考：「地理院地図」の紹介　令和元年〔2019年〕前後＞

防災面の基盤地図を目指すウェブ地図「地理院地図」

JICE

～ご覧頂ける情報の例～

○Web『地理院地図』の発信する地図や写真は、2,000以上

※アナグリフとは、左目に赤、右目に青のフィルムを貼ったメガネを通して見ると立体的に見える画像です。

全国

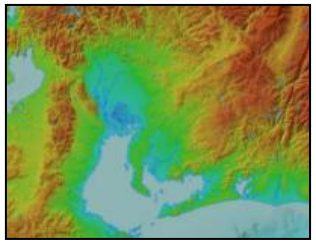
【国土の基本情報】

地形

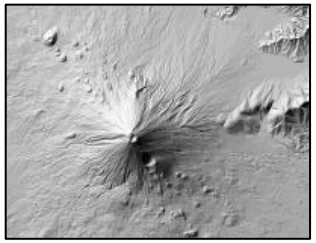
写真

【国土の地形】

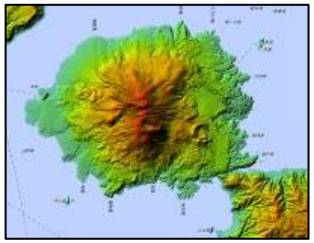
色別標高図



陰影起伏図



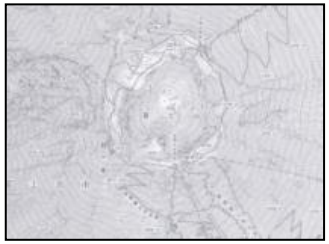
アナグリフ※



地域限定

【火山関連】

火山基本図



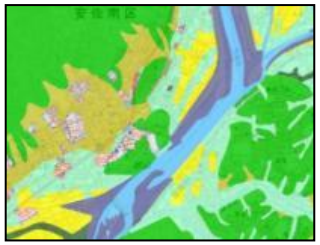
火山土地条件図

【地震関連】

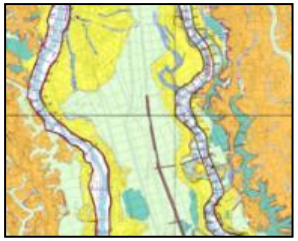
活断層図

【水害関連】

土地条件図

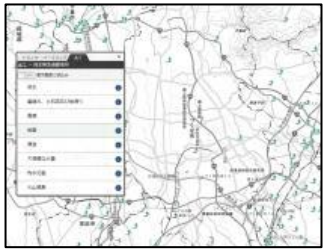


治水地形分類



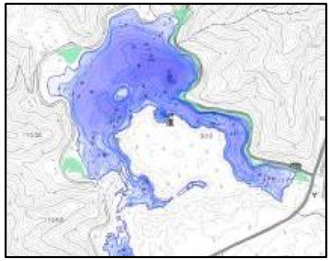
【命を守るために避難する場所】

指定緊急避難場所



【湖沼の地形】

湖沼図



【過去の湿地分布】

明治期の低湿地

【土地の成り立ちと自然災害リスク】

地形分類

No. 24 「自然災害伝承碑」情報の活用イメージ①

土地の成り立ちや災害履歴でハザードマップをサポート

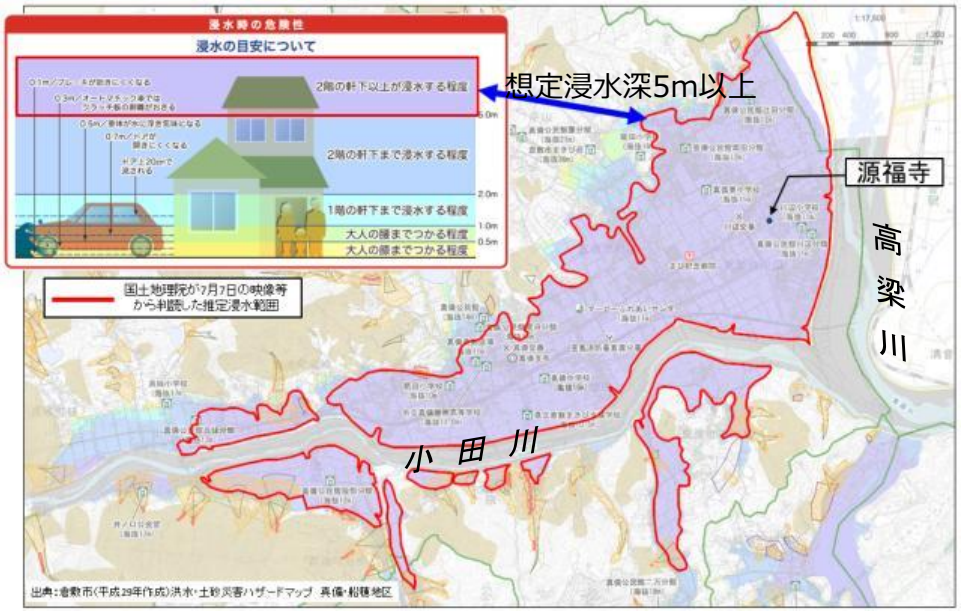
JICE

○ 倉敷市（平成29年作成）の**洪水・土砂災害ハザードマップと7月豪雨による浸水実績はほぼ一致**

○ ハザードマップでは、浸水深が5m以上（２階でも安全でない）と示されていた

○ **土地の成り立ちと、先人が伝えてくれた災害履歴を組み合わせ地理院地図で提供**

→災害を現実としてイメージ可能に



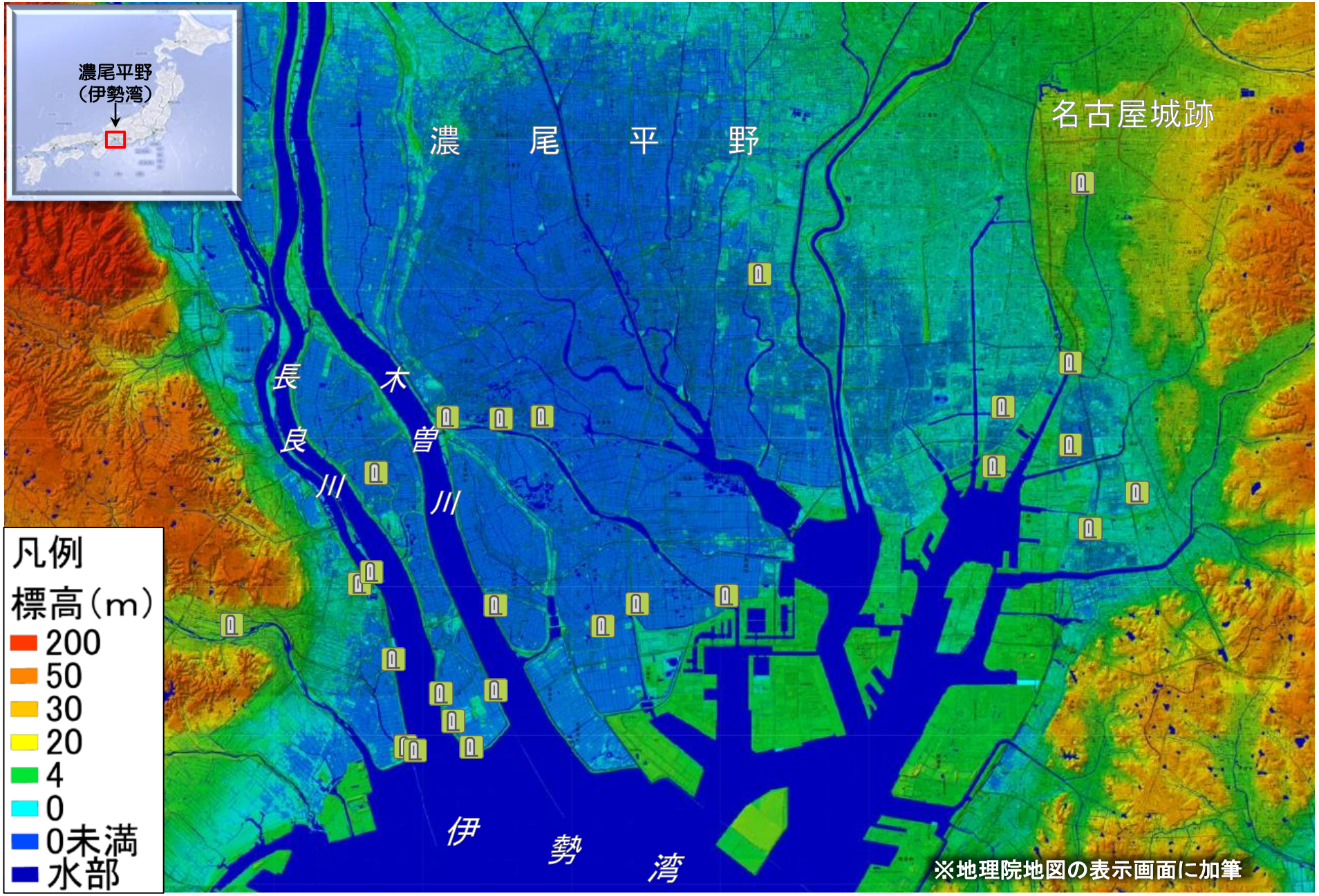
倉敷市ハザードマップ（平成29年作成）
平成30年西日本豪雨の浸水範囲を赤で追記

地形特性情報と災害履歴情報を「地理院地図」上で重ね合わせ

No. 25 「自然災害伝承碑」情報の活用イメージ②

濃尾平野のデジタル標高地形図と自然災害伝承碑

JICE



地理・防災教育面での活用・支援

JICE

■４年後（令和４年度）に高等学校での「地理総合」の必履修化を受け、
今、子供達への地理教育や防災教育の支援をより強化するタイミング

＜国土地理院が重点的に取り組む地理教育支援策＞

① ・ウェブ地図「地理院地図」の防災地理情報の内容を充実しつつ，教材として使って頂くための取組みの強化

② ・教員を対象に、教育現場での国土地理院のコンテンツが活用されるように、学習段階に応じた情報や活用例を的確に提供

③ ・地理教育に関する優良事例を育成し、それを横展開する取組みの強化

④ ・教育関係者はもちろん、地方整備局や気象台などの関係機関との連携の重視

近代測量150年で、令和元年の節目に「国土を伝える」役割の明確化

JICE

国土地理院の役割

国土地理院

1．国土を測る

～日本の位置を定める～

石岡測地観測局

～測量の実施環境の確保～

測位の重要インフラ

電子基準点

2．国土を描く

～基礎的な地図を整備～

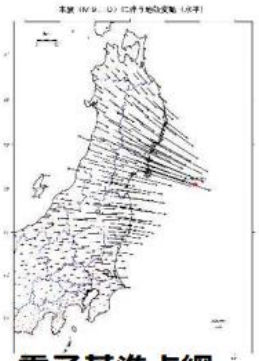
電子国土基本図

～Web上で無償提供～

Web「地理院地図」

3．国土を守る

～地殻変動の把握・分析～



電子基準点網

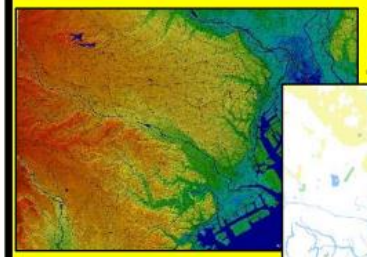
～被災状況の把握・分析～

くにかぜⅢ

くにかぜⅢによる緊急撮影

4．伝える

高さに関する情報



デジタル標高地形図

土地の成り立ち

明治期の低湿地

過去の災害履歴

自然災害伝承碑

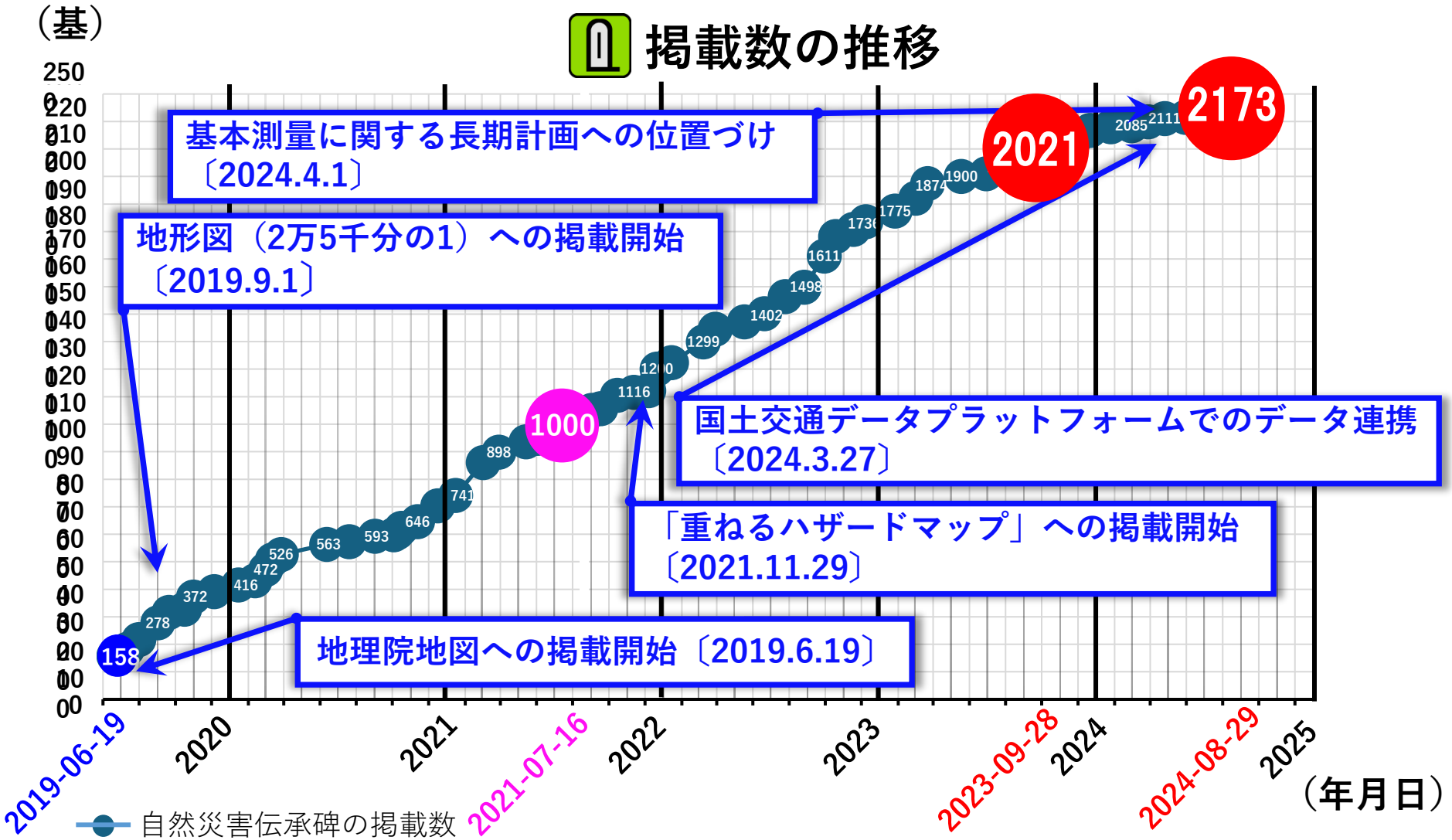
JICE

Ⅲ．第１ステージ（これまで）：地域の災害教訓の見える化

No. 29　自然災害伝承碑の掲載数の推移

令和元年6月に掲載を開始し、今日までに2,173基を公開

JICE



【出典：国土地理院 自然災害伝承碑データから作成】

No. 30　登録への呼びかけ：地理・防災教育を意識

子供達の学びの環境整備へのご理解・ご支援のお願い

JICE

■令和4年度に高校「地理総合」の必履修化を受け、
今、子供達への地理教育や防災教育の支援をより強化するタイミング

▽

■あなたの地域に遺る「自然災害伝承碑」を是非、地図に載せましょう
⇒自然災害伝承碑の登録は、地元の市町村が国土地理院の地方測量部に申請

▽

■そうすることで、子供達が自分たちの地域の土地の成り立ちや災害履歴をしっかり学べるなど、災害への「備え」の学習環境が向上

▽

■更に、先人からの教訓を自然災害伝承碑として、「見える化」することで、それぞれの土地の皆さまに、災害をより身近に、“自分事”として捉えて頂ける可能性が高まります

登録への呼びかけ：防災に関心が高い機関との連携
このプロジェクトに賛同してくださる関係機関との連携

JICE

・例えば、以下のような機会を設けて頂き、「自然災害伝承碑」の登録や利活用へのご支援を頂く

①国土交通省の幹部会で全局へ
・新たな地図記号の制定と防災・地理教育の支援〔2019.4〕

②日本道路協会の講演会で紹介
・高精度測位社会の重要インフラと『備え』を重視した地図政策 〔2019.5〕

③NEXCO西日本での講演
・高精度測位社会の重要インフラと『備え』を重視した地図政策 〔2019.9〕

④道の駅・リレー防災セミナー
・東北及び道の駅「高田松原」からの情報発信への期待〔2020.11〕

⑤ジオメトリストの会での講演
・地理空間情報を扱う皆様への期待〔2021.11〕

⑥関東7地方紙連合での掲載
・「自然災害伝承碑」からのメッセージ〔2022.3〕

⑦全国中小建設業協会での講演
・地図による防災意識社会・構築への一考察 〔2023.1〕

⑧日本応用地質学会での講演
・自然災害伝承碑プロジェクトの第2ステージへの期待〔2024.10〕

国土交通省 国土地理院 Geospatial Information Authority of Japan

登録への呼びかけ：防災に関心が高い機関との連携

○日本ジオパーク全国大会で自然災害伝承碑の活用を議論

○ 第12回白山手取川大会において、自然災害伝承碑をテーマに分科会を開催

○ 国土地理院の取組紹介、各地のジオパークから防災への活用の取組を報告・議論

○ 国土地理院の取組への協力、活用事例を共有し、各地で活動を展開していくことを確認

●講　演
- 自然災害伝承碑を考える
  秋田県・東北からの報告
  （あきた地域資源ネットワーク）
- 自然災害伝承碑の取組と利活用
  （国土地理院）

●先進ジオパークの事例紹介
- 男鹿半島・大潟ジオパーク
- 浅間山北麓ジオパーク
- 箱根ジオパーク
- 糸魚川ジオパーク

■コーディネーター
宮原育子 宮城学院女子大学教授
（日本ジオパーク委員会　副委員長）

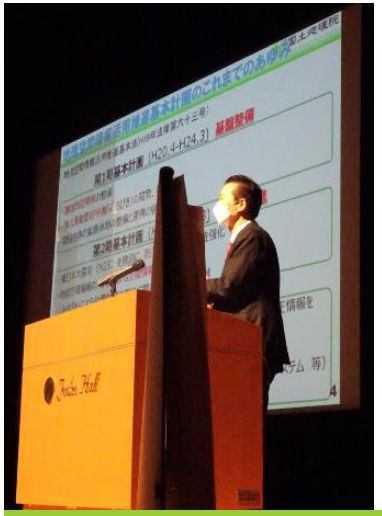
分科会「自然災害伝承碑とジオパーク」〔2022.10〕

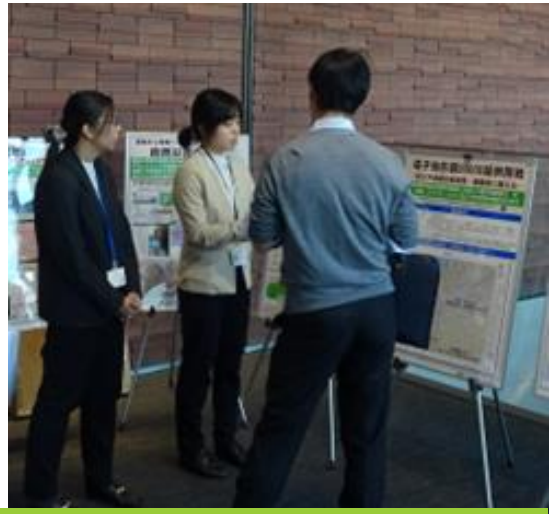
登録への呼びかけ：個別の地域の工夫①

○産学官の関係機関への紹介、登録の呼びかけ（近畿地方測量部）

○ 「関西G空間フォーラム」において、講演、パネルディスカッション、展示を実施

○ 産学官の関係者に広く自然災害伝承碑の取組を紹介し、登録と活用を呼びかけ





関西G空間フォーラム（大阪市）〔2022.10〕

関西G空間フォーラム in 奈良（奈良市）〔2022.11〕

登録への呼びかけ：個別の地域の工夫②

○「道の駅」を活用した紹介（東北地方測量部）

○ 道の駅「たろう」（岩手県宮古市）道路情報館でパネル展示

※　自然災害伝承碑の取組、道の駅付近の自然災害伝承碑を紹介

○ 東北「道の駅」連絡会のホームページに自然災害伝承碑のリンクバナーを掲載

※　北陸「道の駅」連絡会、中部「道の駅」連絡会にも掲載が拡大

道の駅「たろう」（岩手県宮古）〔2021.12〕

東北「道の駅」連絡会　ホームページ

※　国土地理院ホームページにある自然災害伝承碑のページへのリンクは原則フリーです。
また、様々な利活用事例も掲載していますので、是非ご利用ください。
（詳しくは国土地理院コンテンツ利用規約、リンク・利用規約をご確認ください）

登録への呼びかけ：個別の地域の工夫③

○県と連携した登録のよびかけ（関東地方測量部）

○長野県では災害伝承の取組を推進
- 「過去の災害に学ぶページ」を開設し、地域防災に活用できる情報を発信
- 「災害伝承カレンダー」、「災害伝承カード」を作成配布（県内建設事務所で配布）

○長野県と連携し、県内市町村へ登録と利活用を促進
- 説明や登録要領を提供、県を通して市町村へ登録を促進

過去の災害に学ぶページ

長野県ホームページより

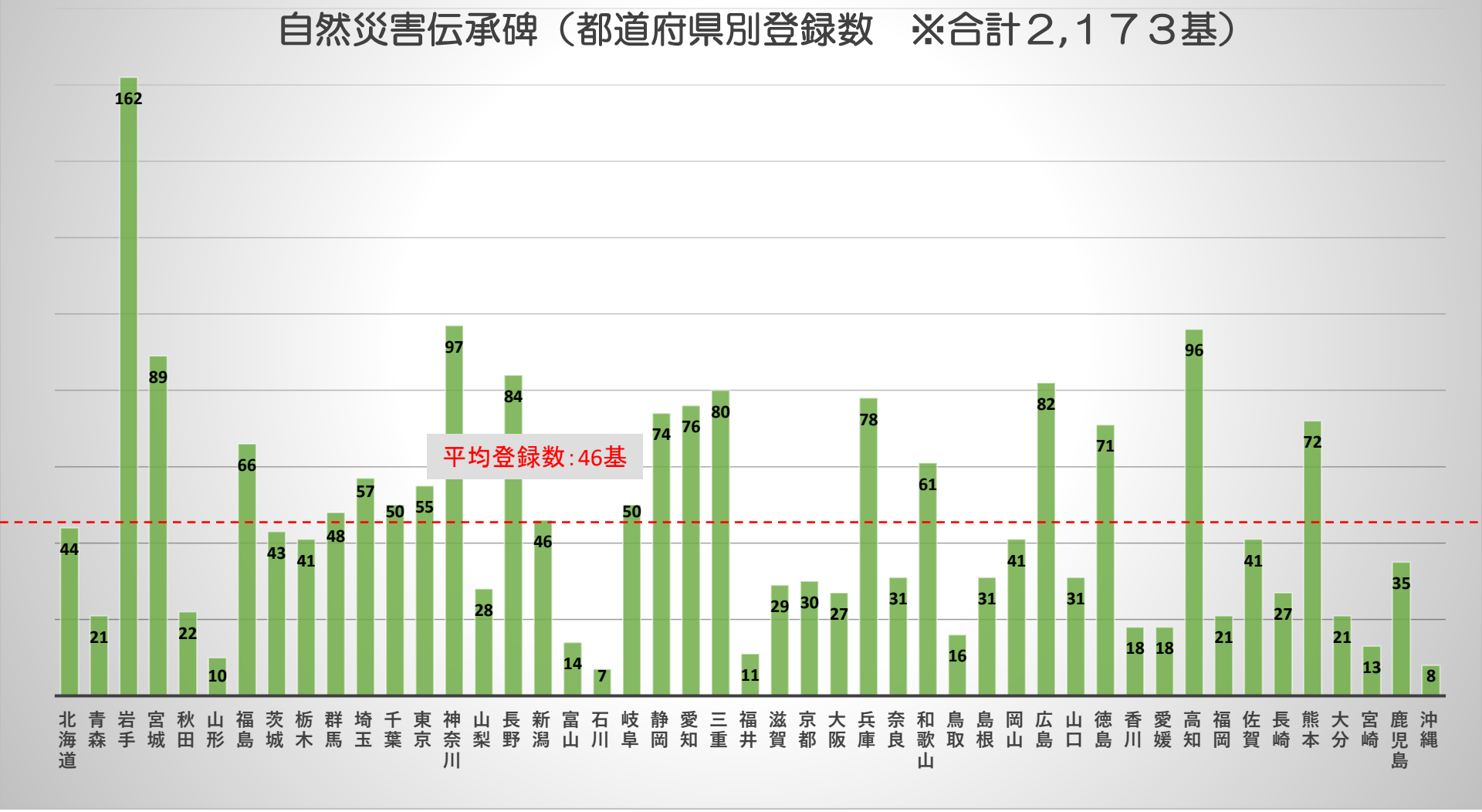
災害伝承カード

長野県建設部砂防課　Xより

現在の自然災害伝承碑の登録状況（2024.8.29時点）

JICE

※2024.8.29時点



現在の自然災害伝承碑の登録状況（2024.8.29時点）
このうち洪水災害の47都道府県の登録状況

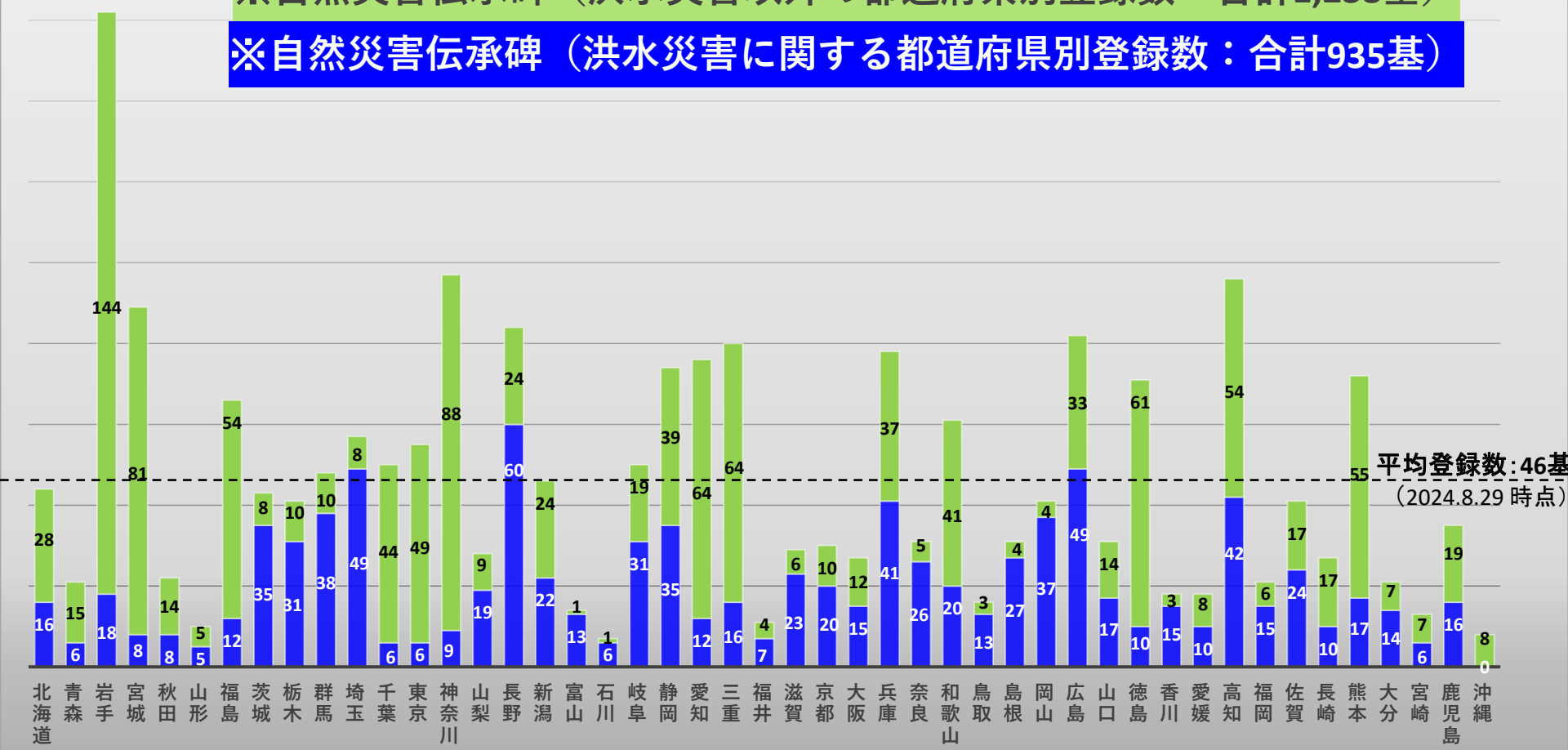
JICE

※2024.8.29時点

自然災害伝承碑2024.8.29時点（都道府県別登録数：合計2,173基）

※自然災害伝承碑（洪水災害以外の都道府県別登録数：合計1,238基）

※自然災害伝承碑（洪水災害に関する都道府県別登録数：合計935基）



No. 38

現在の自然災害伝承碑の登録状況（2024.8.29時点）
このうち土砂災害の47都道府県の登録状況

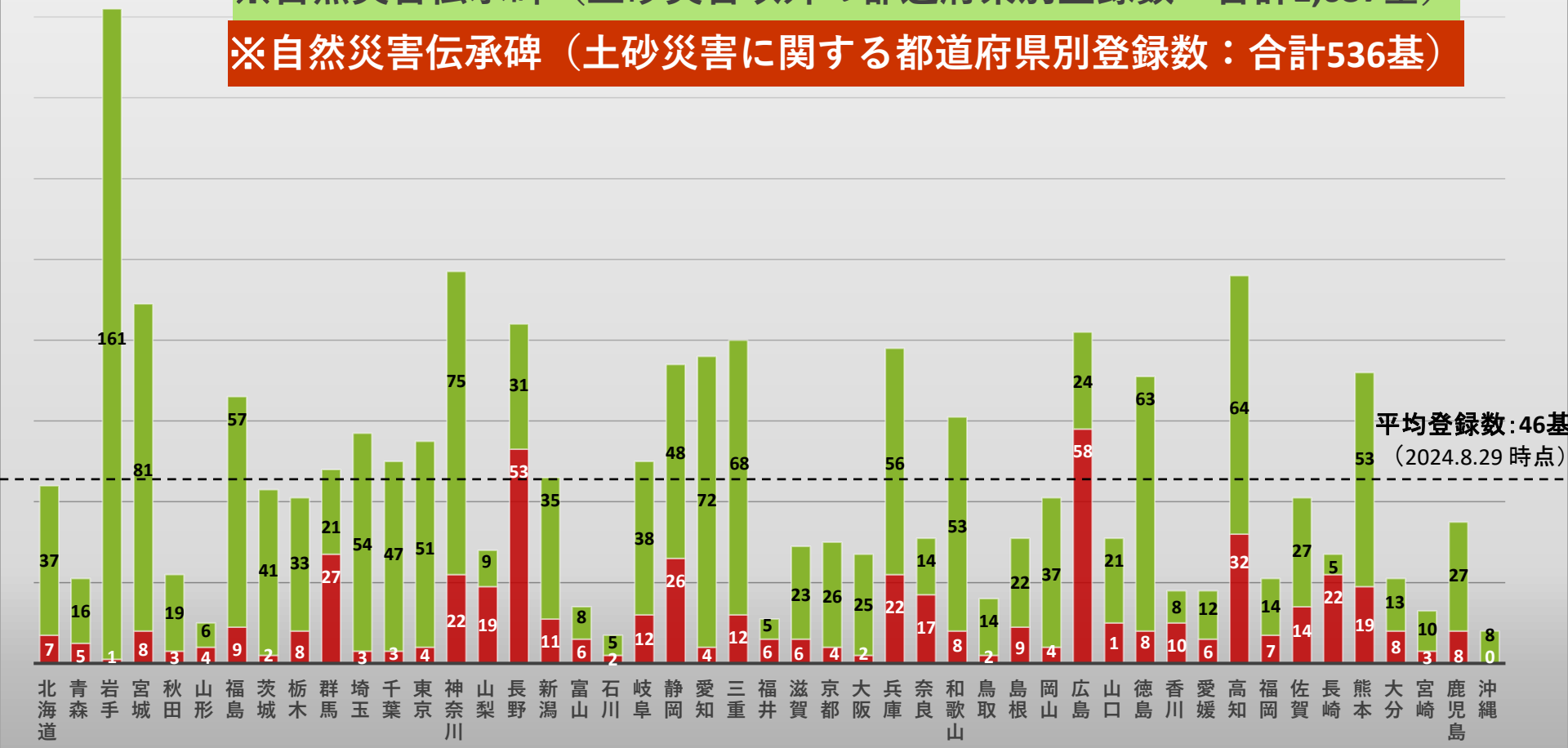
JICE

※2024.8.29時点

自然災害伝承碑2024.8.29時点（都道府県別登録数：合計2,173基）

※自然災害伝承碑（土砂災害以外の都道府県別登録数：合計1,637基）

※自然災害伝承碑（土砂災害に関する都道府県別登録数：合計536基）



No. 39

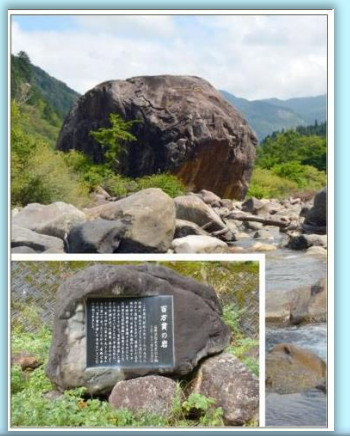
災害の教訓を伝承するものが自然災害伝承碑であり、多様性あり

墓石型でなくても、碑文が無くても登録されます。次世代の碑も・・・

JICE

災害名： 黒神埋没鳥居
大正噴火
（1914年1月12日）

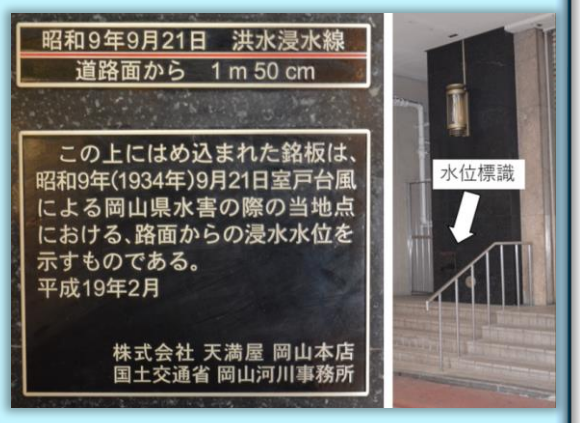
災害名： 百万貫の岩
昭和9年手取川大洪水
（1934年7月11日）



災害名：
昭和22年9月カスリン台風洪水水位
昭和23年9月アイオン台風洪水水位
（1947年9月、1948年9月）

災害名： 岩手・宮城内陸地震
（2008年6月14日）

災害名： 室戸台風
（1934年9月21日）

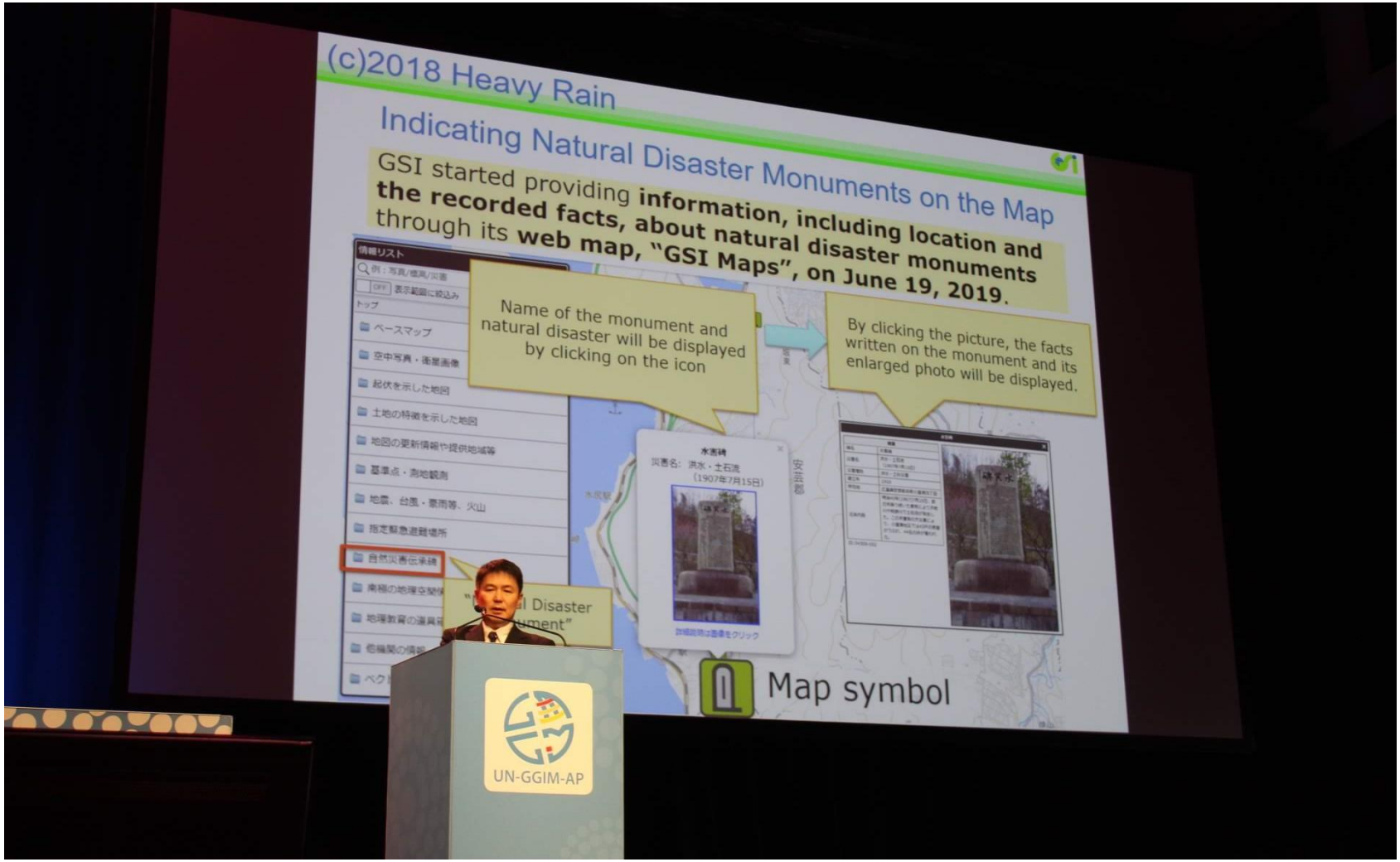


災害名：平成30年7月豪雨災害の記録
平成30年7月豪雨（西日本豪雨）
（218年7月5日～7日）

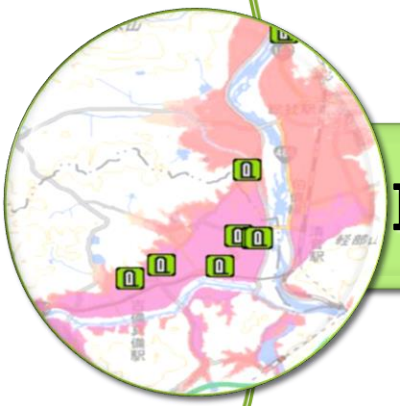
国際社会への自然災害伝承碑（Natural Disaster Monuments）の紹介

JICE

・2020年9月、オーストラリアのキャンベラにて開催された「国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会」(UN-GGIM-AP）総会で、国土地理院の大木章一・測地部長（前・院長）が自然災害伝承碑の取組を紹介



JICE



Ⅳ.第２ステージ（これから）：災害の自分事化や具体的な備えへの活用

防災意識社会に向けて

JICE

激甚化する自然災害へは、社会資本政策もハード・ソフト・ハートでのアプローチの時代　⇒　自然災害伝承碑でハート（人の意識）の領域へ

ステップ１：自然災害を正しく知る

▽

ステップ２：自然災害を自分事化する

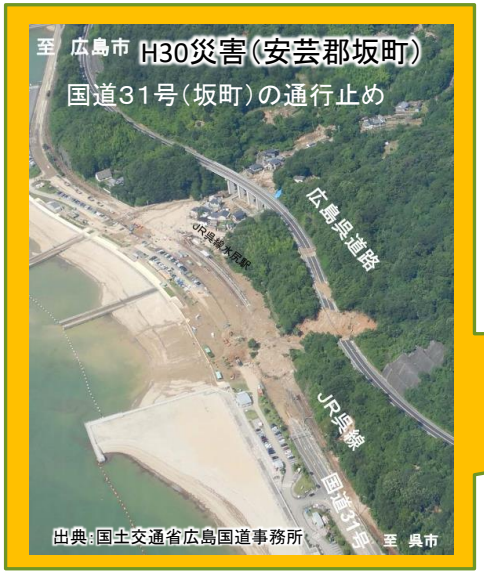
▽

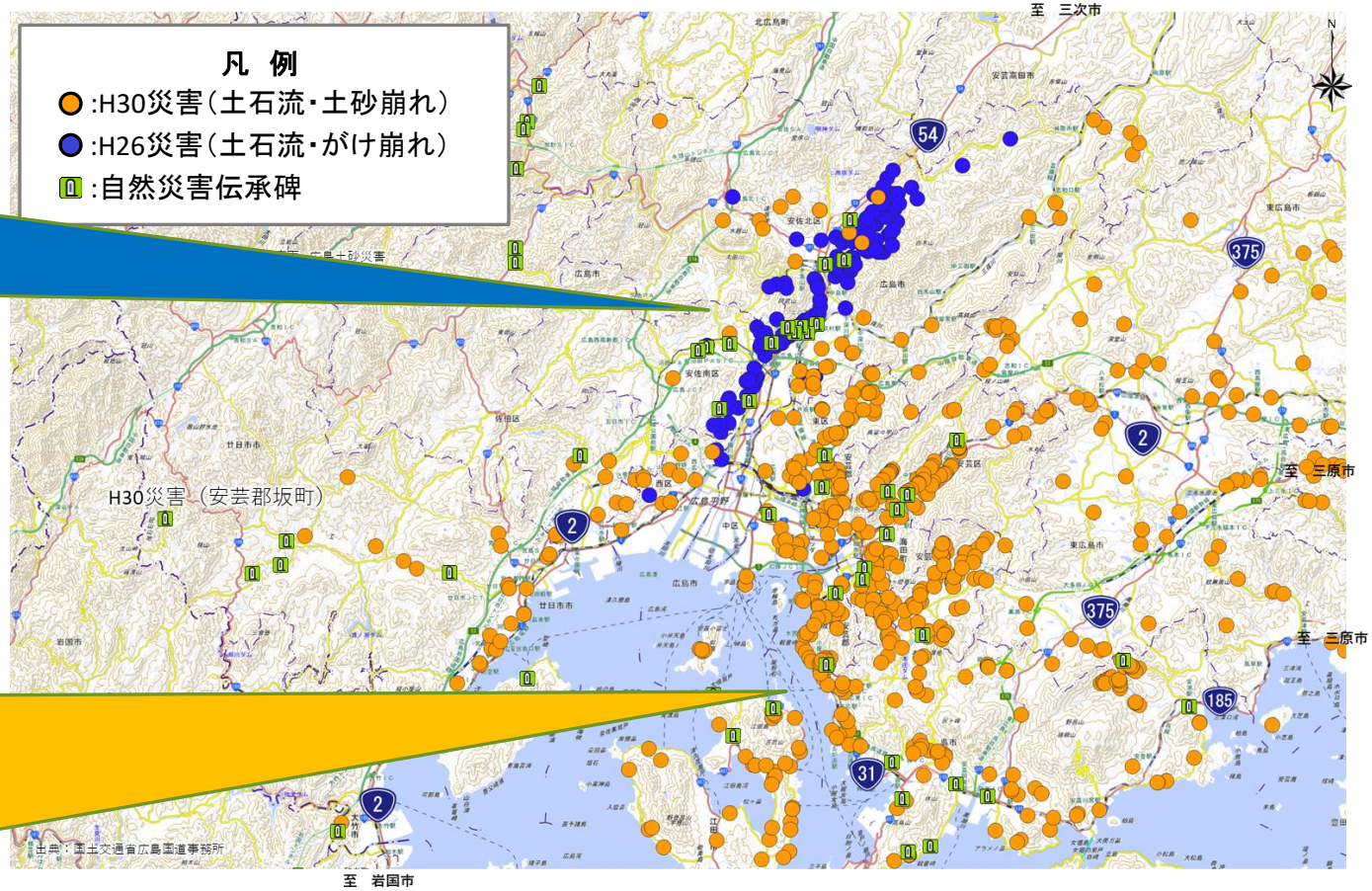
ステップ３：自然災害に備え・対応する

自然災害伝承碑の利活用事例①-1：広島国道事務所の取り組み
災害時の道路緊急復旧への『備え』の充実

JICE

○中国地方整備局の広島国道事務所が管理する緊急輸送道路（国道2号、31号、54号）の沿道や背後地には、土砂災害に関する自然災害伝承碑が多数設置
○この事実や教訓を踏まえた道路啓開計画（土砂災害対応版BCP（案））の策定





下図：地理院地図（電子国土Web）

No. 44

自然災害伝承碑の利活用事例①-2：広島国道事務所の取り組み

過去の災害履歴を念頭においた資機材の確保、関係機関との調整など

JICE

○広島国道では土砂災害対応版BCP(案)のなかで具体的な被災を念頭に、『事前行動』として1.防災体制、2.各班の行動計画、3.資機材の確保、4.関係機関との調整、5.啓開路線の優先順位、6.迂回路、7.訓練計画などを策定

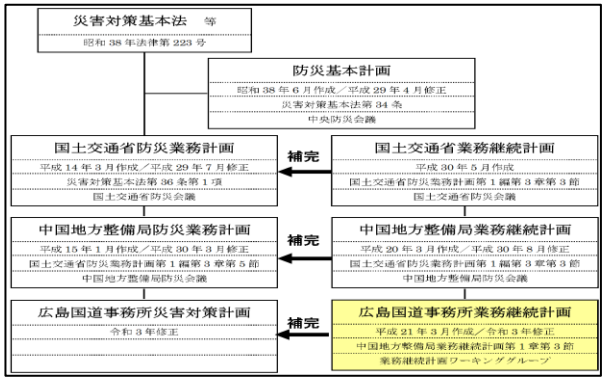
◎背景・目的

広島県では、平成26年豪雨、平成30年豪雨等、過去に甚大なる土砂災害が発生。

本計画は、土砂災害を念頭においた道路啓開計画や早期復旧方策をより具体的に想定し、事前に準備を進めるための「広島国道事務所土砂災害対応版BCP（案）」を策定。

◎計画の位置付け

本計画は、本省や整備局の上位計画を基に、広島国道事務所の災害対策計画及び事業継続計画を踏襲し、豪雨時の土砂災害に特化したものである。



◎計画の構成（案）・主な内容

構成（案）				主な内容
第１章	総則	第１節	目的	○背景及び目的
		第２節	基本事項	○本計画の位置づけ ○本計画の構成 ○継続的見直し
第２章	土砂災害の被害想定	第１節	過去の災害履歴等	○平成30年豪雨、自然災害伝承碑
		第２節	災害リスク	○土砂災害警戒区域・特別警戒区域 ○防災点検箇所（要対策箇所） ○法面危険箇所
		第３節	被災危険箇所の想定	○管内における被災危険箇所
第３章	事前行動	第１節	防災体制	○支部体制発令基準 ○体制組織・役割
		第２節	各班における行動計画	○具体的な行動計画内容
		第３節	資機材	○協定会社 ○資機材保有状況
		第４節	関係機関との調整	○道路啓開方法 ○道路防災ドクター等専門家との調整事項
		第５節	啓開路線の優先順位	○路線別被災リスク ○路線の位置づけ ○路線の重要性 ○優先順位
		第６節	迂回路	○被災リスク箇所における迂回路
		第７節	訓練計画	○訓練メニュー
第４章	事後行動	第１節	タイムライン	○関係機関タイムライン ○支部内タイムライン
		第２節	災害対策業務	○改築対策班 ○統括班 ○管理対策班 ○出張所
		第３節	一般継続重要業務	○管理第一課 ○管理第二課 ○・出張所
参考資料			チェックシート	○様式

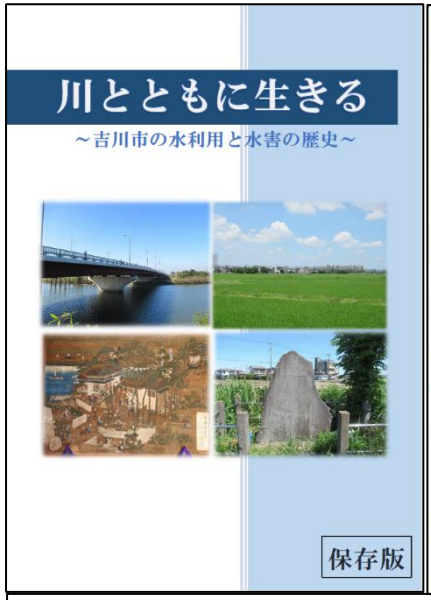
地理院地図への登録を契機に地域での災害の「備え」の活動の活性化①

○地方公共団体の活動（埼玉県 吉川市）

- ○ 自然災害伝承碑の登録を契機に、解説板を設置、伝承碑周辺の歩道を整備
- ○ 冊子「川とともに生きる　-吉川市の水利用と水害の歴史-」を作成
- ○ 啓発イベント「文化財展　文化財から学ぶ水害対策」を開催

1890年8月、大雨により堤防が崩れ海のように冠水。
周辺各村の人々が「協同」で力を合わせて防水にあたり、被害を防いだことを伝えるため1894年に協同碑を建立

吉川市内で登録されている自然災害伝承碑



2022年市内３カ所の石碑が登録されたことを契機に、生涯学習課で、碑文の内容と先人の備えを紹介した冊子を作成。また、啓発イベントを開催

作成した冊子と啓発イベント

吉川市ホームページより

地理院地図への登録を契機に地域での災害の「備え」の活動の活性化②

○地域住民による活動（神奈川県 相模原市）

○ 自然災害伝承碑の登録を契機に、地域住民が「自然災害伝承碑地震峠を守る会」を結成

○ 案内板と自然災害伝承碑認定標柱を設置し、周辺の清掃、維持管理、教訓の伝承を実施

○ 記録映画の作成、地元の高校生や大学生と漫画で伝える活動も行っている

1923年の関東大震災の山崩れで、死者16名、埋没棟数9戸の被害を受けた。伝承碑は大震災の２～３年後に遺族が慰霊のために建立

大震殃死諸精霊（たいしんおうししょせいれいひ）

守る会が設置した案内板と標柱

地理院地図への登録を契機に地域での災害の「備え」の活動の活性化③

○地方公共団体の活動（福岡県 うきは市）

○ ～災害は歴史に学び逃げ遅れゼロ～　の取組を実施

○ 1953年の筑後川の氾濫（西日本大水害）等の災害と伝承碑を紹介する冊子を作成

○ 冊子は全世帯に配布、小中学校の防災資料として学校にも配布

作成した冊子

住民による防災街歩き

住民による防災マップ作成

うきは市ホームページより

地理院地図への登録を契機に地域での災害の「備え」の活動の活性化④

○団体による活動（一般社団法人　災害伝承普及協会）

○ ブログ、SNS、イベント等を通じて、防災や心理学の観点で災害伝承の重要性を発信

○ 全国の自然災害伝承碑を探訪し、各地の自然災害伝承碑情報を紹介

○ 自然災害伝承碑を巡る「自然災害伝承碑スタンプラリー」を開催

災害伝承普及協会のホームページ

自然災害伝承碑スタンプラリー（ポスター）

災害伝承普及協会のホームページより　https://husegu.com/

※　令和６年度「測量の日」における功労者（団体）として、国土地理院長から感謝状を贈呈

地理院地図の自然災害伝承碑・情報の充実への期待

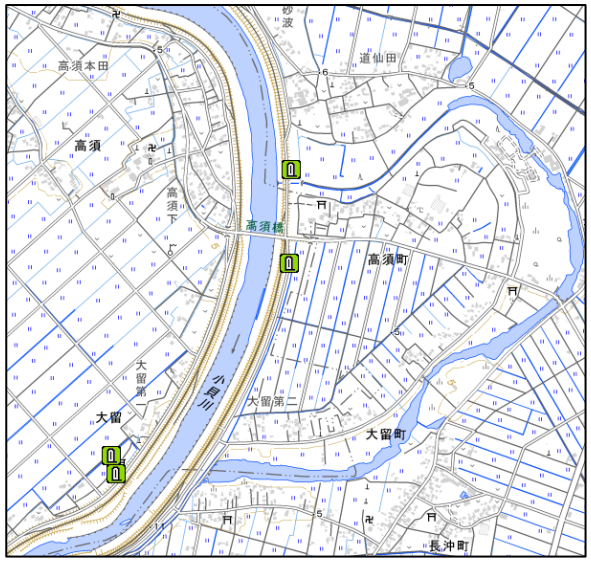
○地形特性情報の活用で、自然災害への理解を深め、防災力の向上へ

○ 自然災害の起こりやすさと地形には密接な関係がある

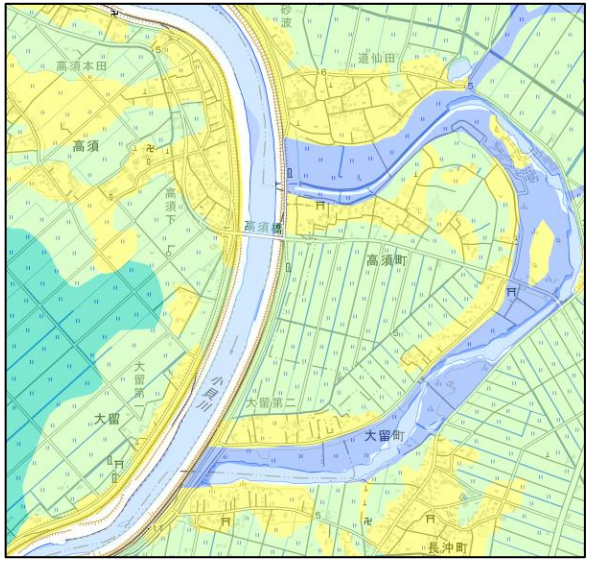
○ 伝承碑が伝える災害への理解を深めるためには、地形特性情報の活用が効果的

○ 国土地理院では様々な地形特性情報を提供、地理院地図で重ね合わせも可能

国土地理院（主題図）　https://www.gsi.go.jp/kikaku/index.html

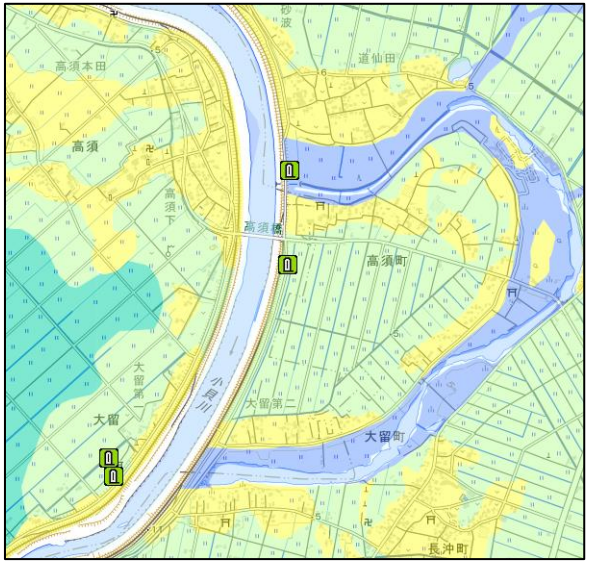


自然災害伝承碑（洪水）



地形分類（自然地形）

旧河道　自然堤防　氾濫平野



自然災害伝承碑と地形分類を地理院地図で重ねて表示

・伝承碑は、旧河道に隣接する自然堤防、氾濫平野にあることが多い・・・
・地域の地形は河川の氾濫の積み重ねで形成されている・・・

地理院地図で様々な情報を重ねて表示

国土交通省 国土地理院 Geospatial Information Authority of Japan

地理院地図の自然災害伝承碑・情報の更なる進化への期待

○伝承情報の充実により、災害教訓への理解を深め、防災力の向上へ

○ 地理院地図の自然災害伝承碑から、外部サイトへのリンクが可能（一部で実現）

○ 伝承碑が伝える教訓の学びを深めるため、詳細な情報がある外部サイトの活用も有効

○ 更なる学びをサポートするため、外部サイトへのリンクを充実させていく

地理院地図

伝承碑の説明

広島大学　水害碑資料のサイト

※　自然災害伝承碑の登録時にリンク先を確認（市町村からの登録申請書にリンク希望先を記載）

No. 51

自然災害の「自分ごと」化を目指す「NIPPON 防災資産」の制度活用への期待①

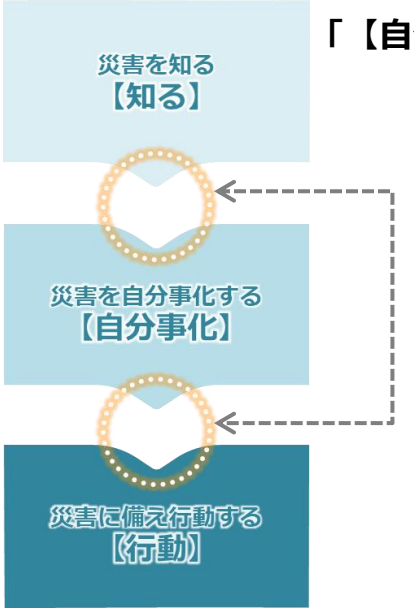
JICE

□2024年5月、内閣府、国土交通省が地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動などを「NIPPON 防災資産」として認定する制度を創設。

【本制度は「災害の自分事化協議会（（一財）国土技術研究センターによる自主研究）」の検討成果を踏まえて創設。】

□全国の流域治水協議会等を通じて防災資産の認定候補を抽出し、その中から『災害の自分事化協議会』が「優良認定」、「認定」案件を推薦し、内閣府特命担当大臣（防災担当）、国土交通大臣が認定。

□国民一人一人が過去の災害の教訓や今後の備えを理解することで、災害リスクを自分事化し、主体的な避難行動や地域に貢献する防災行動につなげるもの。



「【自分事化】が【知る】と【行動】を繋げる」ための二つの取組

■取り組み①
心を揺さぶり行動に誘う
良質な情報の発掘・育成
⟹ 「NIPPON防災資産」として認定する制度

■取り組み②
情報を伝える仕組みの
展開・普及
⟹ イベント、ツアー
学校教育、保険加入等

NIPPON防災資産ロゴ
（国土交通省）
(登録第6835579号)

No. 52

自然災害の「自分ごと」化を目指す「NIPPON 防災資産」の制度活用への期待②

JICE

2024年9月5日、優良認定11件、認定11件発表

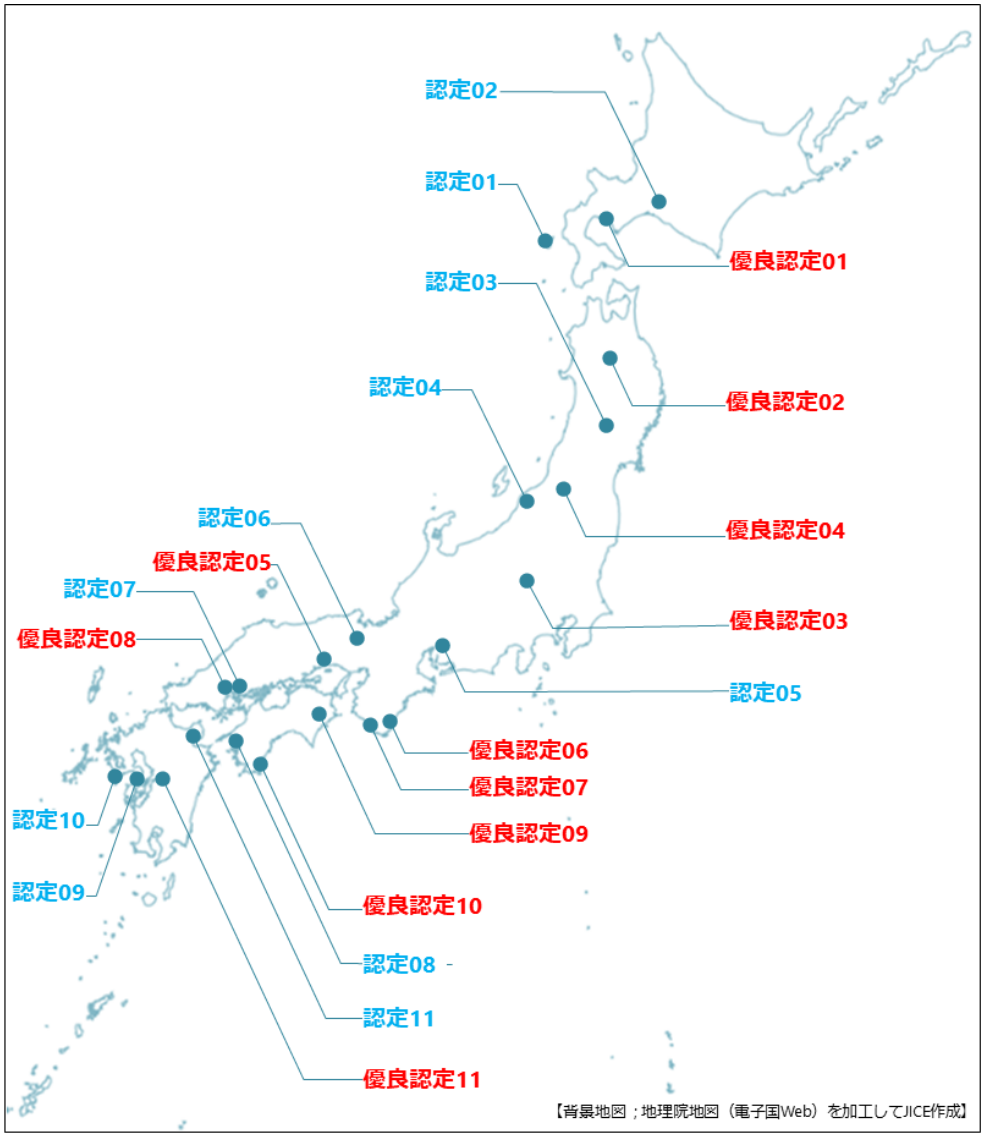
都内にて、優良案件を対象とした第１回認定式開催

認定証授与

認定者との記念撮影

【出典; https://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_009829.html】

「第1回NIPPON防災資産」認定案件位置図



自然災害の「自分ごと」化を目指す「NIPPON 防災資産」の制度活用への期待③

JICE

「第1回NIPPON防災資産」認定案件一覧

優良認定（11件）

No.	名称	活動拠点	対象災害
01	洞爺湖有珠火山マイスター	北海道 洞爺湖町	有珠山噴火災害
02	3.11伝承ロード	青森県 岩手県 宮城県 福島県	東日本大震災
03	嬬恋村・天明三年浅間山噴火災害語り継ぎ活動	群馬県　嬬恋村	天明3年浅間山噴火災害
04	えちごせきかわ　大したもん蛇まつり	新潟県 関川村	S42.8羽越水害
05	阪神・淡路大震災記念　人と防災未来センター	兵庫県 神戸市	阪神・淡路大震災
06	和歌山県土砂災害啓発センター	和歌山県那智勝浦町	H23紀伊半島大水害
07	稲むらの火の館	和歌山県 広川町	安政南海地震
08	広島市豪雨災害伝承館	広島県 広島市	H26.8豪雨
09	四国防災八十八話マップ	徳島県 香川県 愛媛県 高知県	四国における全ての災害
10	黒潮町の防災ツーリズム	高知県 黒潮町	南海トラフ地震（想定）
11	熊本地震　記憶の廻廊	熊本県	H28熊本地震

認定（11件）

01	奥尻島津波館及び奥尻島津波語り部隊	北海道 奥尻町	H5北海道南西沖地震
02	厚真町震災学習プログラム	北海道 厚真町	H30北海道胆振東部地震
03	栗駒山麓ジオパーク	宮城県 栗原市	H20岩手・宮城内陸地震
04	信濃川大河津資料館を拠点とした地域活性化の取組	新潟県 燕市	信濃川流域内水害全般
05	土岐川・庄内川流域治水ポータルサイト	愛知県 名古屋市	土岐川・庄内川流域内水害全般
06	福知山市治水記念館	京都府 福知山市	S28.9台風第13号等
07	坂町自然災害伝承公園	広島県 坂町	M40、H30.7豪雨
08	乙亥会館災害伝承展示室	愛媛県 西予市	H30.7豪雨
09	雲仙岳災害記念館	長崎県 島原市	雲仙・普賢岳噴火災害
10	念仏講まんじゅう配り	長崎県 長崎市	万延元年(1860年)土砂災害
11	大分県災害データアーカイブ及びフィールドツアー	大分県	大分県内における全ての災害

おわりに

JICE

＜日本応用地質学会の会員の皆様によるお力添えを期待＞

○未登録の自然災害伝承碑の登録や利活用に関する啓発

○伝承碑が伝える教訓を「地形特性情報」などと併せて提供し、地域の災害を正しく知って頂く活用へのご支援

○海外でも、「Natural Disaster Monuments」の普及・展開が進むよう情報発信へのご支援

・ご清聴　ありがとうございました。